

## 6. 今後、取り組む予定の対策

社名	今後、取り組む予定の対策
A	・照明設備のLED化[3本社、2工場] (2021～22年度) ・空調・熱源設備の更新[1工場] (2020～23年度)
B	照明の夜間など自動切断の導入
C	バイオマス発電導入の検討
D	・照明をLEDに更新 ・熱源設備 (エアコン含む) やトランスを省エネ型に更新
E	(Aビル) ・照明のLED化を順次進める  (B工場) ・外灯 (水銀灯) の更新 (残 2021年度) ・工場内照明をLED化  (C工場) ・熱源設備の省エネの観点からの運用調整の実施 (2021年度)
F	・更新期を迎えた照明、および器具故障した照明のLED化 (順次更新のため長期的に継続中) ・老朽化した熱源機器・空調機の更新 A工場、B工場、C工場の冷凍機を数年かけて1台ずつ更新中 D工場の生産設備系空調機の更新 (2021～2023年) E本社ビルのPAC空調機の更新 (2025年頃から)
G	・2020年から2023年にかけて新聞制作システムをクラウド化 (サーバー冷却用空調負荷の低減を含む) ・カーボンニュートラルの実現への調査と研究
H	・事務室内のCO2濃度管理およびコロナ感染症防止に留意した上でAHUの送風量を調整し、AHU運転にかかる電力量と熱源機器の産生熱量の低減を図る (2021年度～)  ・浴室シャワーヘッドの節水型への交換で給湯にかかる水道使用量とガス使用量の低減を図る (2021年度～)
I	館内蛍光灯 (直管式) を2021年度末までにすべてLEDに更新を予定していたが、コロナ禍にあって計画は2、3年延びる見通し
J	A本社、B本社、C本社とも冷暖房の空調機器の温度設定をこれまで以上に徹底していく。新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、在宅勤務を推奨しており、これまで以上の成果が期待できる。A本社、B本社が入居しているテナントビルの照明器具はLEDとなった。C本社においてもLEDへの交換が進むと予想される。自社ビルではないため、自社の判断だけでは進めることはできないが、社員1人1人の省エネ意識を高める告知活動は継続していきたい。働き方改革を推進していくことで、消費電力の減少につなげていきたい
K	ペーパーレス化の推進
L	2021年1月から本格的に新社屋が稼働している。2021年度の電力消費状況を把握し、2022年度に削減すべく方策を練っていく予定
M	・LED化計画の残り分実施による全社LED化完了 (2021年度) ・再生可能エネルギーの導入 (2023年度)
N	事務室照明のLED化 (2022年度)
O	照明のLED化

社名	今後、取り組む予定の対策
P	まだLED化されていない箇所の照明のLED化（2021年度）
Q	印刷工場照明LED化（時期未定）
R	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受変電設備更新に伴う高効率化機器の導入（2021年度）</li> <li>・R22冷媒使用の老朽エアコン更新（2021年度～）</li> <li>・太陽光発電設備の設置（2021年度～）</li> </ul>
S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、社内イベントなどに使用している「社名入りのビニール袋」の素材変更、脱プラスチック（2025年）</li> <li>※在庫処分後の切替えを予定</li> <li>・社内の管理文書の電子化（随時変更中）</li> <li>・社有車の入替え時期のハイブリッド車、電気自動車などの活用（時期未定）</li> </ul>
T	環境負荷低減を目指した働き方、印刷用紙の損紙減少に向けた技術力向上を図っていききたい
U	社屋の電気使用量に対する電気設備の容量を見直し、設備容量を縮小することで変圧器の待機電力を減らす（2021年度）
V	計画的に照明器具をLED化
W	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気料金の改定に伴い、電気使用量の見える化を図り、使用料が高くなった時に注意喚起を促す</li> <li>・社内照明のLED化</li> <li>・省エネ対応型エアコンへの更新</li> <li>・省エネ型車両への転換促進</li> </ul>
X	新輪転機導入に伴う4×1輪転機の採用（2021年度～2023年度）
Y	A本社のHf蛍光灯のLED化（2021～2022年）
Z	照明のLED化（2021年6月予定）
AA	本社 6、7階蛍光灯器具のLED化
AB	空調稼働時間の削減をさらに進めたい
AC	蛍光灯のLED化
AD	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「川を美しくする運動」の継続発展</li> <li>・損紙削減、リサイクルの推進</li> <li>・社内照明の完全LED化</li> </ul>
AE	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印刷輪転機の更新（2022年度予定）：最新機種への更新で消費電力の減少を見込む</li> <li>・上記に合わせA本社の印刷工場照明のLED化：メーカーの選定など今後進めて行く予定</li> <li>・B本社の館内約2200灯のダウンライト用LED更新（2024年度まで）：バックヤードなどを低照度のものに交換。消費電力の削減をすすめる</li> </ul>
AF	LED照明の導入（2020年度末から工事中）
AG	オーバースペックの機器の削減

社名	今後、取り組む予定の対策
AH	エネルギー消費機器の更新時期に合わせ、省エネ化の実施
AI	今後は削減目標数値の設定や、その達成に向けた社内の意識改革を推進していきたいと考えている。また、社内照明のLED化をさらに進めていく予定
AJ	本社ビルの照明を従来の蛍光灯からLEDへ交換（2021年）
AK	照明のLED化
AL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本社の事務室をLED器具更新工事をして、水銀入り管球の使用及びエネルギー削減を目指す 2021年度 3階編集局・5階 2022年度 3階編集局以外・4階・6階 2023年度 B階・1階・2階</li> <li>・ 老朽化したエアコンを省エネ型エアコン更新工事をして、エネルギー削減を目指す 2021年度 1階・6階 2022年度 3階 2023年度 2階 2024年度 4階 2025年度 5階</li> </ul>
AM	本社印刷工場にLED照明設備の導入(2021～2022年度)
AN	近い将来に新社屋移転が計画されており、従来社屋で老朽・非効率などの課題がある設備の廃棄や使用停止、見直し・更新などが大幅に行われること、新社屋でのオフィス再編に伴いエネルギー効率最適化を図ることが想定され、本社でのエネルギー消費が減少すると見込まれる
AO	2021年度に印刷工場の昇降機更新 消費電力削減効果は原油換算で0.62k1/年
AP	新聞古紙の回収
AQ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 照明設備のLED化（毎年継続）</li> <li>・ 富士フイルム PLATE to PLATE リサイクルへの参加（毎年継続）</li> </ul>
AR	本社ビル各階の消費電力を測定するなど、今後の省エネ計画の策定に役立てようと考えている
AS	機器設備更新の際は、省エネ効果の高い機器を導入する
AT	社員への啓発活動を推進（空調使用時の省エネ意識の向上や廃棄物の分別徹底など）。SDG s 活動をより具体的に進めるために社以外の企業や県などとの勉強会を実施していく方針